

連携商店街

高円寺阿波おどり 60周年によせて

高円寺パル商店街振興組合 理事長 河原 一

高円寺阿波おどり60周年誠におめでとうございます。

いま私は、60年前の昭和32年8月13日を思い浮かべています。私は4歳でした。高円寺南商盛会（現パル商店街振興組合）に青年部が結成され、20～40代の若者が集まりました。お酒を飲みながらワイワイガヤガヤ、話の中で青年部結成を記念して何かやろう！となったに違いありません。そうして生まれたのが高円寺ばか踊りでした。その2週間後の8月27日、38名の猛者たちが長仙寺さんの庫裡で着替え、顔を白く塗って横の路地から踊り出し商店街を駆け抜けました。私も第6回（昭和37年）から踊って55年、恥ずかしいので観客の中に同級生がいないことを祈りながら踊りました。今年で満60年、1万人の踊り子、100万人の観客、誰が想像できたでしょう。町おこしの原点と自負してもいいんじゃないでしょうか。鬼籍に入られた先輩たちに感謝！



新高円寺通商店街振興組合 理事長 西川 繁雄

阿波踊り60周年記念お喜び申し上げます。

夏の風物詩として根づいたのも各地元の商店街、町会、自治会、地域住民の方々、各官庁、JR、メトロ、関東バス、学校のご協力の賜物と思っています。世界の踊りの中でも芸術を融合した優れた踊りの祭典で鳴り物と踊り手が一對となり愉快で奥深い踊り、今では親子三世代が踊っている家族もみられ、各連のお囃子のリズムや男踊りの豪快でコミカルな踊り、女踊りは上品でしなやかな踊り、息の合った組踊りなど見学者の目を楽しませてくれます。海外との文化交流も公演を通して日本の文化を世界に発信、今後も徳島を師匠として仰ぎ踊る阿呆に未永く愛される踊りで有りたい。



高円寺銀座商店会協同組合 理事長 (NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会 理事長) 久保田 潤一 ▶ P.6



高円寺南商店会 会長 山田 滉

60周年を経て。

南駅前大通り（中央演舞場）は第13回大会にて踊りのメインコースになりました。道路に白線を引いてロープを張って観客との境を作っただけでした。見物客はまばらでしたね。あれから47年、現在の事態になるとは誰が想像したでしょうか？ 私は唯々裏方に徹しながら踊りとお囃子を見てまいりました。最近ではドーム球場での（ふるさと祭り）出演、4月の台湾阿波おどり公演等を通して観てみると、踊り・お囃子の質とかがやきが格段に素晴らしいですね。このことが60周年という歴史ですね。ここからは高円寺（阿波）おどりのジャンルを創造していただければ幸いです。



イトアール通り商店会 会長 内藤 一夫

東京高円寺阿波おどり60周年、誠におめでとうございます。

先ず始めに、昭和32年発足以来様々な困難を乗り越えて来られたパル商店街の歴代の理事長始め支えて来られた役員の皆様に感謝申し上げます。そして、高円寺の地域の南北の商店街、町会との連携協力拡大で、街と共に大いに発展し、高円寺の地域文化としてしっかりと定着して、更に国内のみならず世界にも発信出来るお祭りとなり、地元の一人としても大変誇らしい想いでおります。私も1972年に「みどり連」に参加させてもらい、未熟な技量ながら阿波おどりの楽しさと感動を経験しましたが、当時と比べ踊りのレベルが格段に向上して参加連の数も観客数も増え、本場徳島を凌ぐ程となりました。又、高円寺阿波おどりの発展は、商店街の賑わいと地域振興に大いに貢献して来ました。今や海外からも認められるブランドになった東京高円寺阿波おどりが、70年80年100年と発展して進んでいくことを願います。



高円寺駅西商店会 会長 香取 孝

高円寺阿波おどり60周年おめでとうございます。

私たち中通商店街が高円寺阿波おどりの連携商店街に加わり、本番の1ヶ月前の夏休みに入った最初の日曜日に、商店街の中でプレ阿波おどりを開催するようになりました。また本番の2日間の1時から4時の間には6から7つの地元連が商店街の中で踊ってくれます。来街客の皆さんはもとより、本番に踊りを観ることができない地元のお年寄りや、小さなお子さんを抱えた親御さん、またはお店の従業員たちも楽しみにしてくれています。数年前に東京高円寺阿波おどり振興協会に理事になってびっくりしたことがあります。それは60年をこえる歴史があって、2日間で100万人の観客を動員する東京を代表する行事にも関わらず、この行事を支えているスタッフの少なすぎる数と役員の高齢化です。東京高円寺阿波おどりの次の10年、20年、30年先を考える時、私の脳裏を一抹の不安がよぎりました。今度は運営もマイナーチェンジを重ねながら、多くの担い手を育成して、100周年を目指して益々の発展に繋がっていきたくと思います。



高円寺中通商栄会 会長 矢部 春雄

阿波おどり60周年、おめでとうございます。

長い歳月の積み重ねの中には、山あり谷ありの物語があったことと存じます。創設から今日まで受け継いで来られた多くの先輩諸氏には深く感謝申し上げます。私たちの商店街は中央線の高架下、駅の西側に位置する飲食店街です。阿波おどりの会場にはなっていないものの本番の2日間には大勢のお客様で街は大いに繁盛します。本番の昼間には幾つかの連が街の中を踊って下さり、これで開店準備に励む店舗従業員をはじめとする街のボルテージは否応なく上がります。そして本番の鳴り物の音が鳴り響くのと同時に、大勢のお客様が詰めかけ、あまりに盛り上がり過ぎ道路も客席とするなど、周囲にご迷惑をお掛けしてしまうことは何とも申し訳ないのですが、各店とも一年で最高の活況を見せます。阿波おどりは商店街の垣根を取り払い、高円寺のまちを一つにしてくれます。連携商店街の一つとして東京高円寺阿波おどりの盛況に向けて一層尽力して参ります。



馬橋商興会 会長 里見 秀和

東京高円寺阿波おどりが創立60周年を迎えられましたこと、

心からお祝い申し上げます。私共、馬橋商興会は青梅街道にある商店街です。高円寺商店連合会に仲間入りして、まだ日が浅いため会員諸先輩から、東京高円寺阿波おどりの歴史を伺うと昭和32年、地域の商店の活性化を図るべき地元の方々がバカ踊りで始まった祭りが紆余曲折しながらも脈々と商店会会員の努力で伝統を受け継ぎ傳承されている事に感銘する次第です。高円寺の8月の夜の風物詩、阿波踊りが地元の人達に感動を与える以上に、地方や海外に行かれている人々にもきつとノクターン（夜想曲）として想い出す事でしょう。これからも東京高円寺阿波おどりが未永く発展していける様、はじっこ商店街も協力してまいります。



トランスボックスアート

電線、電柱の地中化に伴い地上に設置される東京電力の地上機器(トランスボックス)。ところどころにいたずら書きがされ、街の雰囲気汚していたこのトランスボックスをアートで飾り、美観の向上を図るとともに、魅を発信していこうと平成26年度に3基に阿波おどりをモチーフにしたデザイン画のラッピングを実施しました。

この事業に対して地域や来街者から上がった好評の声を受けて、2015年(平成27年)12月から2016年1月にかけて、募集テーマを「東京高円寺阿波おどり」、「高円寺の文化」とする「まちなかアートデザインコンテスト@高円寺」を実施、北海道から大阪に至る148作品の応募があり、30作品が選ばれました。

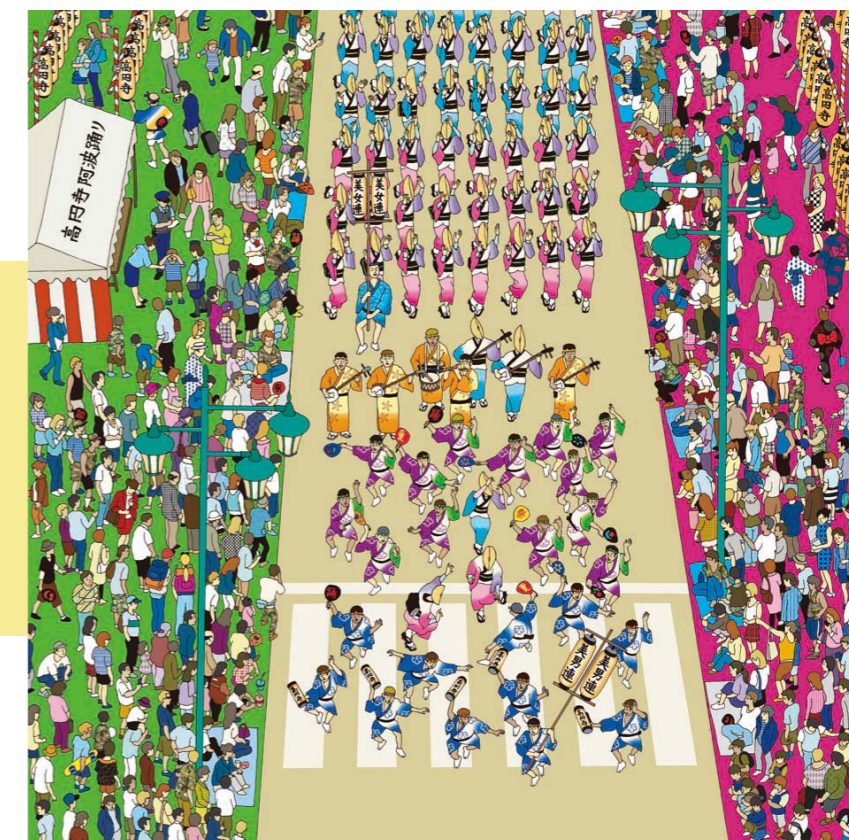
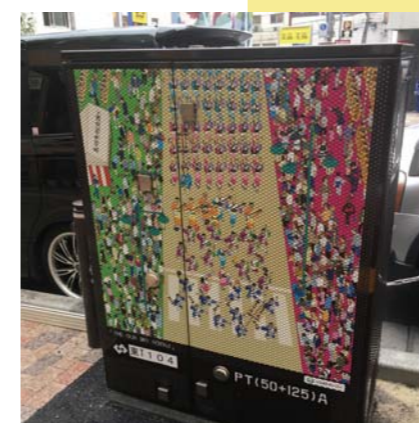
この入選の30点と先行実施の3点、所在掲示の2点を合わせ35基のラッピングされたトランスボックスが、今では街の景色と同化し高円寺の街に彩を添えています。

こうした事業を契機にして高円寺の街が様々なアートで満たされると楽しいでしょうね、ここでは代表作をご紹介します。



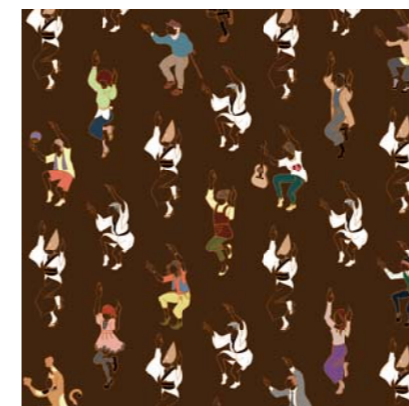
「THE OUR 踊り
KOENJI」

金永 治雄さん



「蝉時雨」

荒張 ほのかさん

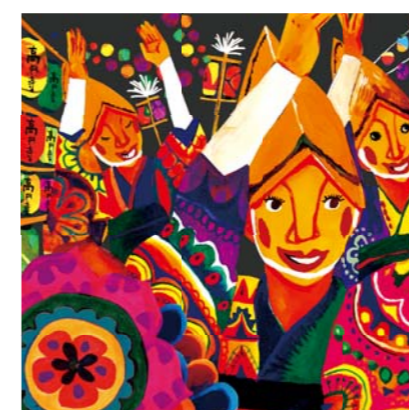


「踊る阿呆」
赤嶺 明美さん

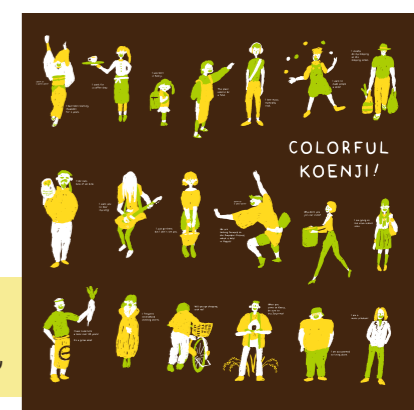
「マイタウン高円寺」
いけの よしこさん



「高円寺に舞う」
石井 理恵子さん



「COLORFUL KOENJI!」
後藤 友香さん



未来へつなぐ

～高円寺阿波おどりがなすべき事～

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、特に岩手、宮城、福島を中心に甚大な被害が発生しました。さらに福島県は原発事故も発生し、杉並区と災害援助協定を結ぶ福島県南相馬市もその被害を受けました。

当時、各地域の祭事は次々と中止、延期を余儀なくされました。高円寺阿波おどりも8月の開催とはいえ、開催するか否か議論となりました。

しかし、まず何よりも被災地に向けて、高円寺阿波おどりとして何が出来るか？ 高円寺阿波おどりは3月20日に「東日本大震災義援金募金活動」を行い、さらに5月14日に「がんばろう日本!! 東日本大震災復興支援高円寺阿波おどり」を実施いたしました。



また、夏の開催においては、電力消費に影響の少ない午後3時～6時までという前例のない実施時間として、杉並区をはじめ関係各機関と協議を繰り返した上、近隣商店会や町内会、さらに住民の方々のご協力により、前年に引き続き第55回高円寺阿波おどりを開催する運びとなりました。



高円寺阿波おどりは1995年の阪神淡路大震災支援のチャリティ阿波おどり、さらに2004年の中越地震の際も義援金募金活動を行いました。

そして記憶に新しい2016年4月に発生した、熊本地震の際も5月にチャリティ阿波おどりをを行い、復興支援のお手伝いをさせていただいてまいりました。



今後も高円寺阿波おどりは、チャリティ活動を始めとして、様々な社会貢献を念頭に活動を続けてまいります。

編集後記

60周年記念誌いかがでしたでしょうか。

制作行程はとても大変でしたが、高円寺阿波おどりの歴史等を調べてるうちに、自分も知らなかった事を知る良い機会であったと感じております。

先人の創った高円寺阿波おどりを未来へつないでいけるよう努めたいと思います。

編集

東京高円寺阿波おどり
60周年記念誌制作委員会

